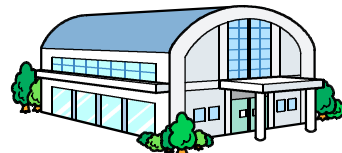




田島小だより

No. 8

2学期もよろしくお願いします！



夏休み、充実したものとなったことが、子供たちの表情や様子から伺うことができました。さて、2学期ですが、以下の9月の行事予定のようにたくさんの行事が計画されています。毎年同じことを書きますが、行事の準備・実施により、あっという間に長いと思っている2学期は終わってしまいます。できるだけ早く休みの気分を抜き、通常モードに子供たちを・・・と考えています。「学級通信」等に記されている事柄を再度親子で確認し、モード変更をスムーズにしてください。これができないと、登校渋りなど、新たな問題にもつながりかねませんので。

さて、その2学期から体育館工事がいよいよ始まります。そのため、始業式はオンラインでの実施でした。生の子供たちの歓声を聞くことができず少し残念でした。このことが2学期の間続くことになるかと思うと、コロナ禍での活動の制限を思い出します。

体育館工事の概要については以下のとおりです。

- 1 工事期間 8月から12月を目安に行う。
- 2 期間中の教育活動
 - ・体育 : 2校舎3階多目的ホールでの学習 田島中央体育館での学習
 - ・3校舎への移動 : 理科等の学習では、屋外を通り、3校舎玄関より入り学習
 - ・物品の移動 : 必要なものについては、業者の許可のもと運び出し可能
 - ・学習発表会 : 各教室等で学年ごとの発表を予定
 - ・駐車場 : 工事の柵設置のため、体育館周辺は使用不可能になる。
※学童関係での使用に注意を。

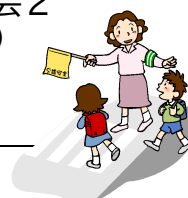
- 3 樹木の伐採について
 - ・工事に伴い、校門脇のサクラ及び給食室運搬口のケヤキの伐採を行いました。



学校において安全面について指導しますが、下校後や休日における安全指導を各家庭でもお願いします。

9月の行事予定 ※ 青字・アンダーラインは変更です。

3 (火) 中学校を知らう (6年) 教育実習生実習開始	20 (金) 秋に親しもう (1・2年) ※ 1・2年弁当
4 (水) マラソンの走り方を知らう (T) クラブ	23 (月) 秋分の日
6 (金) 授業参観・保護者の集い	24 (火) 集金日 <u>交通安全パレード (変更)</u>
10 (火) つどいの広場 (1年) 南郷トマト・大桃舞台見学 (3年・予定)	視力検査 (高学年) 秋に親しもう予備日※1・2年弁当
11 (水) 学力向上 (T)	25 (水) 視力検査 (中学年) 学力向上 (T)
13 (金) <u>避難訓練・引き渡し訓練 (変更)</u>	26 (木) 校内マラソン記録会2
16 (月) 敬老の日	27 (金) 視力検査 (低学年)
17 (火) PTA実行委員会	30 (月) 陸上壮行会 (T)
18 (水) 全校集会 (T)	



「情報との関わり方・関わせ方について」

～郡PTA研究大会『田島大会』講演より～

先の学校だよりで「情報」について記しました。その際紹介した7月27日の郡PTAの講演会について印象に残り、そして保護者の方々とも共有したい内容をまとめましたので、ご確認ください。内容によっては、耳が痛かったり、心当たりがなかったりと様々かと思いますが、今の子供たちの情報への関わせ方や親として情報にどのように関わっていったら良いかを考える上での視点にしていいただければと思います。

- 「サイレント・ベビー」が入学する
 - ・育児しながらスマホ(スマホ育児)→親は子供の表情ではなくスマホを
 - 親に関心を持ってもらえない子供→子供は反応が薄くなる。
 - 幼稚園などの集団で、周囲となじめず孤立する子供へ
 - 親子間のコミュニケーション不足＝信頼関係△
- 「見る」「観る」と「視る」 ※ネットメディアは悪影響か？
 - ・「見る」：意図せず視界に入ってくる内容を眺める行動 主体性がない
 - ・「観る」：目の前にある物に視線を集中させる行動 主体性あり (学びがある)
 - 「視る」：メディアを通して「学び」があるか大人(保護者・教員等)が「観る」必要がある。
- 責任の所在
 - ・「テレビ・ラジオ」：発信した側が責任を持っている。
 - ・「インターネット」：情報の正誤判断 取捨選択を自己責任で行う必要がある。
- 情報モラル教育は誰が行うのか。
 - ・インターネットを安全に提供するのは「通信業者」の責任
 - ・インターネットを安全に利用するのは、「教育」の責任
 - 教育の順序：①家庭 ②学校 ③地域社会 ④地域企業等



その他に

- ・ゲームと脳の関係はドーパミン。でもそれが大量にあると感受性が低下し、幸福感を感じられない状態(人間の心のマイナス)になること。
- ・ネットの危険から子供を守るためには、子供の様子をしっかり「視る」こと。そして褒めて自己有用感を高めること。

「あつい夏」のキャッチフレーズのとおり、会場を「暑く」感じた方も多いと思いますが、講師の方の「熱い」講話を受けとめ、改めて子育ての大切さ、大変さを感じることができた時間となりました。

私なりに感じたこととして、以下のことがあります。

- 1 教員の多忙化は、「家庭からの要望に応える学校が、家庭がやらなければならないことを行っている」ことも一つにあるのではないかと。自転車の乗り方なども含め、教育の順序・責任の所在という点からも考えていきたい。
- 2 教育の順序では、「①家庭 ②学校 ③地域」から、中学校の部活動指導の地域移行等を考えると「①家庭 ②地域 ③学校」となってくることも考えられる。
- 3 特別な支援が必要な子供の増加について、子供の中に障がいがあり特性ある行動となる場合と養育環境という外的要因で同様の特性ある行動を示す子供がいるのではないかと。自ずとその要因によって対応の仕方が変わってくるはずであるが、子供の内部の要因に偏った対応がなされてはいないか。養育環境の子供への影響とその対応についてより検討していくことがこれからは必要になってくる。

ともすると、講演会等は堅苦しく感じ参加することを躊躇しがちですが、新たな考えや自分の考えを整理するために貴重な意見や考え方を示していただける機会と、私は考えています。この後も講演会の機会はあります。ぜひ、これらの機会を効果的に活用し、子供たちの健全育成に、また保護者自身のアップグレードにつなげてください。